

古高松コミュニティ協議会 広報誌

コミュニティセンター
落成記念号



私達地区民が待望した古高松コミュニティセンターが完成し、去る八月十日、その落成式がめでたく遂行されました。

ご承知の事と思われませんが、この施設は高松市コミュニティセンター一号館として建設されたものであり、住民と行政の協働の場として、「地域自らのまちづくり」活動を実践する拠点として機能するよう期待されるものです。

従ってこの施設が施工に至ります経過の中では、各種団体代表者による「センター整備構想を考える会」を、六カ月間に八回に及ぶ検討会でその整備構想をまとめ、建築設計に当っては「設計コンペ方式」の採用を、強く市当局に陳情しました。結果として香川県建築士会の設計課題として採用され、入選設計が基本設計の基となりました。

こうした経過を経て、私達はすでに「安全安心のまちづくり」を基本目標とする古高松コミュニティプランを作成して、地域自らのまちづくりに取組んでいます。どうかこの施設が「明るいまちづくり」に活用される事を、皆様と共に期待したいと思えます。



古高松コミュニティ協議会

会長 加藤 直之

コミュニティセンター
落成に寄せて

新たな協同連帯のシンボル

古高松コミュニティセンター開館

待望の落成式・祝賀会

ステージを備えた円形の屋外広場や、光庭、独創的な設計の高松市コミュニティセンター第一号館。待望の古高松コミュニティセンターが完成し、八月七日から業務を開始しました。今後、市が他地域で整備するセンターのモデルとなるもので、運営を含め市民の注目を集めています。

その完成を祝う落成式並びに祝賀会が八月十日(木)午前十一時



地域活動の中核施設として活用を強調する増田市長の式辞



あいさつする綾野市議会議長

落成式では、まず、増田市長が「住民皆様に広く親しまれ、地域の町づくり活動の中核施設、また、地区の新たな協同連帯のシンボルとして活用して欲しい」と式辞を述べたあと、綾野和夫高松市議会議長が祝辞、香西信行市民部長が工事の経過を報告しました。工事を担当した磯野建築事務所(実施設計)、富田工務店(主体工事)、

三十分から新装のコミュニティセンターホールで盛大に開かれまし。式には増田昌三高松市長はじめ市関係者や来賓、地元関係者ら約百七十人が出席し、新たな地域の町づくり活動拠点のスタートを祝いました。

四国メインテナンス(電気設備工事)、新英工業(給排水衛生設備工事)の四社には、増田市長から感謝状が贈られました。来賓代表として菰渕将鷹高松市議会議員の祝辞などのあと、古高松地区コミュニティ協議会の加藤直之会長が謝辞を述べ、「地域自らの町づくりの拠点施設が、私たちと行政との協同の拠点として機能するよう期待します」と強調しました。

式場には、センター建設推進に尽力し、今年四月、死去した多田通夫元協議会副会長の遺影が協議会役員に抱かれて参列、念願のセンター完成を喜んでいました。落成祝賀会は、引き続き同ホールであり、松山浩治高松市議会議

綾野高松市議会議長あいさつ(要旨)

議長あいさつ(要旨)

立派な古高松コミュニティセンターが完成し、地元の皆様とともに心からお喜び申し上げます。このコミュニティセンター建設に当たっては、長い時間地域の皆様といろいろ協議された聞いております。会期も三代にわたり、それぞれの節目、時期を経て長い間苦勞され、また、視察も重ね、地域として検討してきた

結果のセンターです。誠に羨ましい限りです。高松市の第一号センターでもあり、今後、ますます市の先導役を果たしてほしい。今は、地方分権の時代といわれています。地域もそれぞれ地域協議会を中心にして特色を出した立派な地域にしなければならぬと思います。各協議会の連帯で高松市全体が活気づくようお願いします。皆様がそれぞれの立場で活動され、地区が一体となって繁栄されますよう心から祈念しております。



工事を担当した企業4社に対して
増田市長から感謝状贈呈

増田高松市長式辞

(要旨)

高松市は今回の合併で人口、面積とも飛躍的に拡大したが、その一方で地域の連帯感が希薄になることなどが懸念されます。そのため従来の公民館をコミュニティセンターと改称し、市民と市政が協同して地域からの町づくり活動を実践するため、拠点施設を設けることにしました。そしてこのたび、古高松コミュニティセンターが、新築1号として新たな地域の拠点として生まれ変わりをめでたく落成しました。誠に喜びに

たえません。

本コミュニティセンター建設に当たっては、施設整備のプランニング段階から地域の皆様に具体的に参加いただき、また、古高松コミュニティセンター協議会は建設準備委員会、コミュニティセンターづくりを考える会のご協力を頂きながら、基本構想が策定され、平成十七年十二月には、香川県建築士会など専門家の協力を頂く中で本市初のコミュニティセンターとして着工しました。

このたび、完成したコミュニティセンターは、地域の誰もが利用しやすいよう平屋建て構造としており、建物の総床面積も従来の地区公民館の約一・四倍となっています。また、建物の西側には円形のコミュニティ広場や、屋外ステージを設けるなど機能面にも工夫をこらして整備されています。

今後、このコミュニティセンターが、住民皆様に広く親しまれ、地域の町づくり活動の中核施設、また、古高松地区の新たな協同連帯のシンボルとしてしっかりと活用いただきますよう心から期待しております。



待望のセンター落成を寿ぎ、和やかな歓談が続くレセプション



ホール 舞台のこけら落とし。祝宴ムードを盛り上げる祝いの舞



地域の将来も話題にたけなわの祝宴



式典会場の元副会長、故多田通夫氏の遺影

年代超え集い、学び、交流

新館拝見

古高松コミュニティセンター

基本構想の狙い

イワラ建築設計事務所代表 井 藁 博 通



ユニークな円形広場と屋外ステージ（屋上から望む）

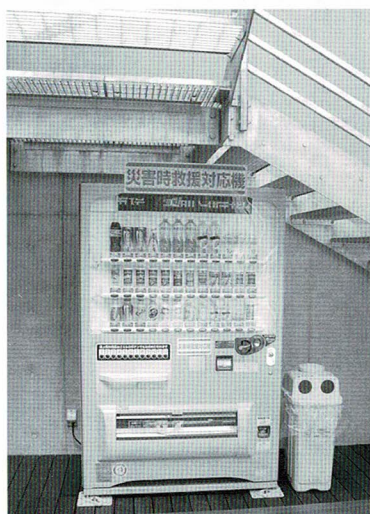
香川県建築士会の設計競技「古高松コミュニティセンター基本構想」に、私の案が採用され、大変光栄に思っています。特に地元の施設だけに喜びもひとしおです。

この案を作成するに当たって特に考慮したことは、ワークショップでまとめた古高松地区の皆さんの意見

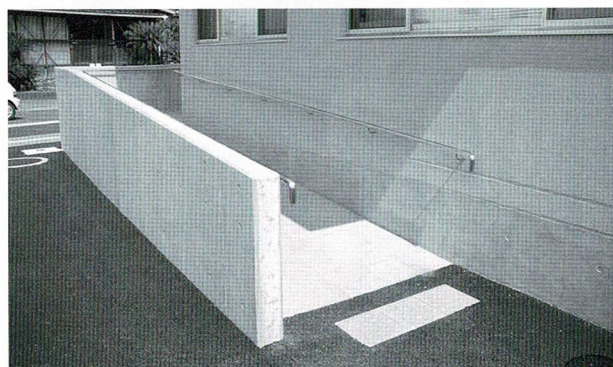
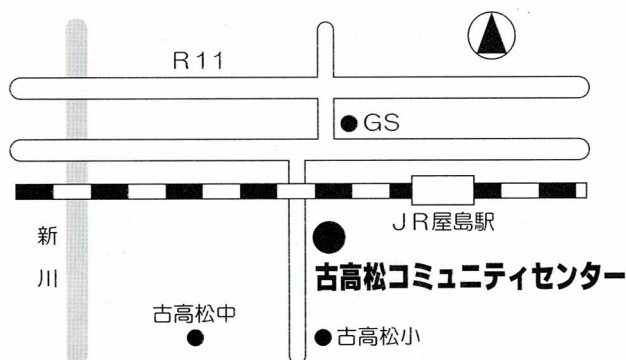
を、できるだけ反映すること、地域の皆さんが集い、交流できるスペースをできるだけ広く取ること、そして太陽光発電、屋上緑化による地球に優しい建物を造ることでした。

屋内では、ホールと図書コーナーを交流スペースとして設け、それに接してステージを備えた屋外の円形広場（コミュニティ広場）を配置して内外の一体化を図りました。そして光庭からは将来、屋上庭園が可能な屋上へ行けるように計画しました。

この古高松コミュニティセンターで様々な年代の皆さんが気楽に集い、学び、交流してもらえ、望みます。



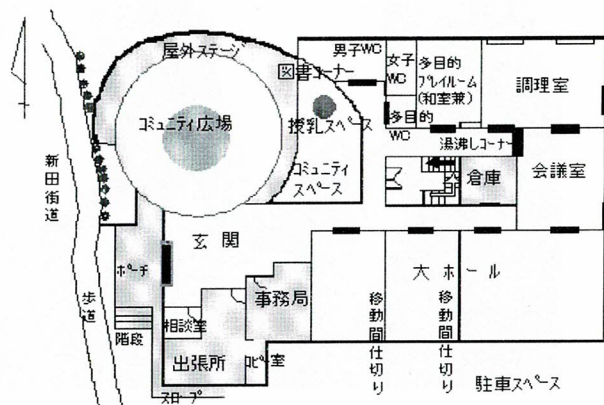
採光に工夫の「光庭」、自販機は災害時の救援対応機。



玄関へ続くスロープ。優しい施設づくりが特徴だ。

施設概要

【所在地】	高松市高松町10番地20
【敷地面積】	2,000.04㎡
【延床面積】	本体部分 697.56㎡ 自転車置き場 11.85㎡ 屋外倉庫 25.95㎡
【構造】	鉄筋コンクリート造 平屋建
【主要施設】	玄関・図書コーナー 198.69㎡ ホール 198.29㎡ 調理室 71.27㎡ 和室 38.91㎡ 会議室 45.00㎡ センター事務局 24.85㎡ 出張所事務所 37.41㎡ 相談室 7.61㎡ コピー室 8.00㎡
【総事業費】	約3億7,060万円



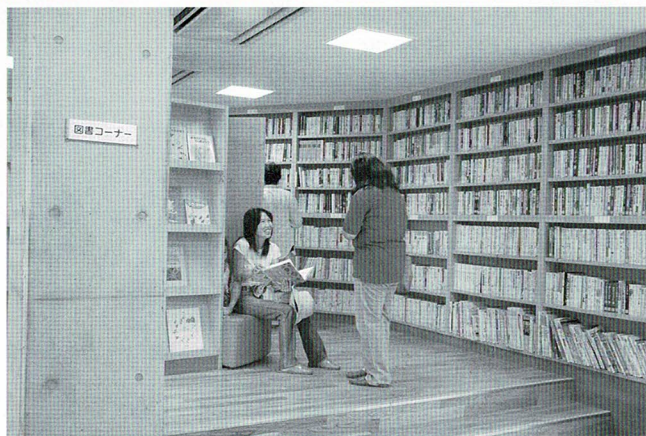
新館拝見

地元の意見が随所に反映

初めて入った日は、引っ越し前、ぴっぴかぴかで、がらんと空っぽな感じが、荷物があふれ、人々の出入りが多くなると、やはり地域の拠点だと実感しています。

思ったほどは広くないものの、すっきりと開く戸、出入りを感知する照明、使い勝手のいい机や椅子、青い香など新しいコミュニティセンターならではのものです。

また、入ってすぐのコミュニティスペースは、図書コーナーと一体化して、乳幼児か



交流スペースも兼ねる図書コーナー。授乳スペースも。

新センター訪問記

地域の拠点を実感

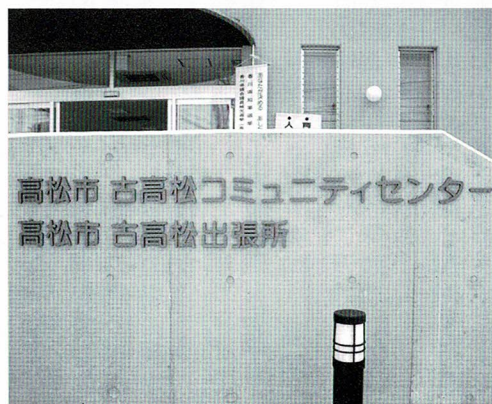
高松町 玉井 文子

らお年寄りまでが心おきなく集い、語り合える場所として、おいに活用したいところ。出張所に用事の折り、催しの折り、コミュニティセンターの折、みんな利用して、地域の皆が使い勝手のいいコミュニティセンターにしたいものです。

しかしながら、新しい所、弱みで、緑が少なく、太陽の照り返しが眩しい。願わくは、花いっぱい緑いっぱいの心やすらぐ場所であってほしいです。



男の料理教室もOKの調理室。



ポーチの壁を利用した標識。

〈建設ドキュメント〉

- H7 公民館建設準備委員会発足
- H15・10・27 公民館建設準備委員会再編成
- H16・1・15 公民館建設準備委員会・コミュニティ協議会合同全大会
- 1・30 公民館建設準備委員会
- 2・5 出雲市高浜コミュニティセンター視察
- 2・10 市内新設公民館視察
- 3・9 委員会・協議会合同三役会
- 3・18 委員会・協議会合同全大会
- 3・22 古高松地区コミュニティセンターづくりを考える会発足
(以後、8月3日まで毎月1〜2回開催)
- 7・3 建設用地決定
- 8・9 協議会臨時総会(整備の基本的な考え方取りまとめ)
県建築士会、建築設計競技の課題に採択
- H17・1・4 協議会臨時総会・建設設計競技入賞作品を基本構想案に決定
- 1・20 基本構想案を市に提案
- 3・2 (4・11) 地元要望書を市に提出
- 4・11 実施設計に着手
- 5・11 実施設計説明会(以後、7月11日まで4回開催)
- 7・20 協議会臨時総会・実施設計案の確定
- 9・8 センター運営について説明会
- 10・15 イメージパース完成・説明会
- 12・13 センター管理運営委員会
- 12・15 施工業者打ち合わせ
- 12・26 工事安全祈願祭
- H18・7・10 竣工
- 8・7 開館
- 8・10 落成式・祝賀会



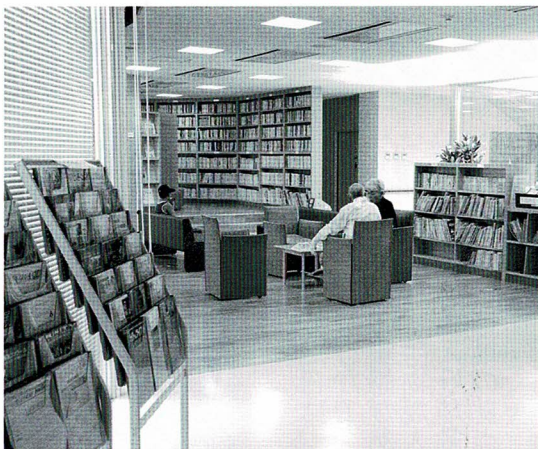
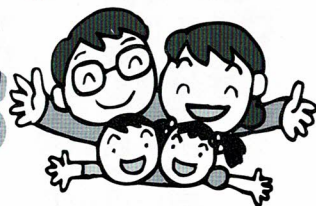
玄関飾り棚上に掲示の地区避難、防災マップ。

センター開館

安心安全の町づくりを目指して

新活動拠点に

期待の声



図書コーナーと一体化、ゆったり交流スペース

古高松地区社会福祉協議会

会長 佐伯 英一

古高松地区社会福祉協議会は、地域コミュニティの中心的役割を自覚し、既存の事業と実績に対し、ますます地域の皆さんのニーズに応えるため、一層の研鑽努力をして参ります。「地域の事は地域で」をモットーに自助共助を推進し、地域福祉の目的達成に向かって努力して参ります。

古高松地区民生児童委員協議会

会長 前田 峻司

市内コミュニティセンターの第一号として落成したことを大変喜んでます。

「コミュニティとは、地域の連帯、コミュニティとは住民の連帯、そしてコミュニティの主役は私達ひとりひとり」を合言葉として今までの公民館から脱却し、新たな情報発信基地となり幅広い住民の方々が利用されることを期待しています。

古高松地区保健委員会

会長 植村 道子

長い間待ちに待った新コミュニティセンターの落成式典に臨み、また外からの眺めも現代的で素晴らしく携わった方々のご苦勞が偲ばれ、感激のみ。新コミュニティに思いを馳せて、人と人とのふれあいを大切に、新センターの名に恥じないよう一層の努力を願いたいと思います。

日赤奉仕団古高松分団

団長 伏見 喜栄子

新しいセンターでの初利用は「セラピューティック・ケア」の一日講習会開催です。これは英国赤十字社が取り組んでいる首と肩と手のマッサージです。

熟練者三十名養成済。無償出張実施中、多くの参加者期待！

古高松中学校PTA

会長 坂下 且人

地域の人達で考え、PTA O Bの井藁さんによる基本設計通りのたてものが出来上がり、古中PTAもコミュニティセンターの所属団体として、子ども達の住み良い安全安心な町づくりに参加協力できたらと思います。

古高松校区子ども会育成連絡協議会

会長 岡谷 正康

すばらしい施設ができ、今後、古高松校区の各地子ども会、育成会の活動拠点に、また、地区の他の団体とのコミュニケーションの場にご利用させて頂きたいと思っています。

古高松南校区子ども会育成連絡協議会

会長 鎌田 高明

三町の中心に出来たことにより南小学校の子どもたちも今までにない活動が出来ると思っています。

まず、手始めに育成会が何か行事を出来ないかと考えています。より

多くの子どもたちが利用できる機会を作っていきたいと思っています。

古高松南小学校PTA

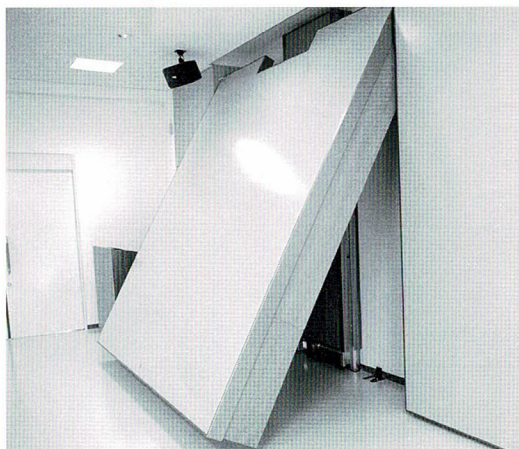
会長 山下 智史

私どもPTA一同が長く待ち望んでいたコミュニティセンターが完成したことは、ほんとうにうれしいことです。ここを拠点にし、地域の親睦を深めて、安心安全の町づくりができたと期待しています。

古高松地区交通安全母の会

会長 木野 美代子

新センターができ、住民の関心が高まっている今、主催、共催事業をよく知って貰い、地域交流・ふれあいの場として一段と活発な活用を期待しております。



ホール壁面がステージに早や変わり

古高松地区交通安全推進協議会

会長 村井 浩治

待望のコミュニティセンターが開館し、「安心安全の町づくり」や福祉活動の利用の多いことから、オープンで開放感のある地域の核として将来共に、気軽に利用出来るようにして頂きありがたい。

しかし、敷地の限られた中、駐車場、駐輪場が狭く、今後、問題となることは必至です。

私達の大きな課題ですので、皆様方のご協力をお願いし、歴史と由緒ある故郷の繁栄を念願しています。

古高松地区自主防災連合会

会長 川田 優

コミュニティセンターを核に、皆さまの支え合う力で防災の輪を拡げ、地域内すべての自治会が自主防災組織を結成して安全な町づくりを目指したいものです。

香川県農協古高松支店

支店長 森澤 寿

近年、我が国は人口減少傾向とともに、少子高齢化が急速に進展し、人間関係も希薄となつてきているように思います。そういった中、新しいま

ちづくりを展開されようとしている「新コミュニティセンター」の役割を、大いに期待しています。

高松東部商店振興会

会長 上池 年勝

高松市の一号館として、バリヤーフリーで生まれた新センターは、中央と屋上に憩いの場があり、役場にしては親しみやすい素敵な構造になっています。

今後はこのセンターを足がかりに、地域交流や文化交流を高め、ふれあいの場として古高松地区を広くアピールしていきたいものです。

「われが古高松コミュニティ活動」

高松市まちづくりアドバイザー 早谷川 悟

この度は、古高松コミュニティセンターの落成おめでとうございます。このセンターの建築計画にあたりましては、当初から地域の皆さんの御意見をとりいれながらプランを作成してまいりました。したがって、このセンターは地域の為の地域のコミュニティセンターといつても過言ではないでしょう。

の各種団体の皆様が真剣に議論を重ねてきました。地域の皆さんがひとつの目標に向かって意見を出し合うこと。これがまさにコミュニティではないでしょうか？ひとつの地域においても沢山の人が住

コミュニティを考えていく上で一番大切な事は、人と人との繋がります。コミュニティの基本は会話です。会話によつて相手の事を知り自分の事も知ってもらう事ができるのです。だから、これからのコミュニティ活動のコミュニティ活動を考えた場合、各自が視野を広く持ち色々な人と会話が出来る雰囲気、環境を作っていくことが必要となります。

平成十八年度古高松地区「コミュニティ協議会役員」	
会長	加藤 直之
副会長	佐々木ナミエ、佐伯 英一
理事	村井 浩治、上枝 基一、内海 重雄、加藤 豊、川田 優、伏見喜栄子、香西 繁治、長町 隆司、山下 智史、楠井 広志、中條 文雄、藤本 豊、坂下 巨入
監事	藤本 豊、坂下 巨入
「同管理運営委員会」	
委員長	加藤 直之
副委員長	内海 重雄
委員	佐々木ナミエ、佐伯 英一、村井 浩治、上枝 基一、高松 武、加藤 豊、坂下 巨入、中條 文雄、長町 隆司
「古高松コミュニティセンター」	
高松市高松町一〇二二〇	TEL〇八七〇八四一六二六二
センター長	吉田 直
副センター長	伊井 智子、大熊 征起
「古高松南コミュニティセンター」	
高松市春日町七八二二二	TEL〇八七〇八四一六二六二
副センター長	北條 正行
「古高松出張所」	
高松市高松町一〇二二〇	TEL〇八七〇八四一六二六二
所長	山本 憲治
多田 利治、吉井 節臣、平石 節子	
「古高松土地改良区」	
高松市高松町一〇二二〇	TEL〇八七〇八四一六二六二
理事長	蒺瀧 将鷹、池田 優佳子





喜岡寺

(喜岡城・高松城跡)
高松町永ノ谷

建武の中興に手柄のあった高松(舟木)頼重が、建武二年(1335)讃岐の守護に任じられ、この城を築いた。以後、消長はあったが、室町戦国時代を経て安土桃山時代に至る八代、約二百五十年間、高松氏一門の居城であった。

ふるさと点描

藩政時代に入り天正十五年(1587)、讃岐十五万石の領主として賤ヶ岳の戦や小牧の戦で勇名を馳せた生駒親正が入国、新しい城を築いた。讃岐さぬきの高松さまの、城が見えます波の上と歌われた現在の高松城である。「高松」の地名は、城下東部の高松郷からとつたもので、元の高松を「古高松」と改称した。高松発祥の地がここにあった。平成九年から毎夏、「旧(ふる)高松城まつり」が開かれている。

(絵・清水 純二)



浴衣姿のちびっ子でにぎわうバザーコーナー

郷土色豊か、ステイジ彩る 盛大に旧高松城まつり

平成十八年度古高松地区ふれあい交流事業の「旧(ふる)高松城まつり」は、七月三十日(日)夕、高松町の菱の池公園で開かれました。今年は、古高松コミュニティセンターの落成記念行事と併せての開催となり、まつりの開、閉会時には、お祝いの餅投げもあり会場を盛り上げました。

手を受けていました。また、会場には各種団体による手作りのバザー、夜店も出て、浴衣がけの家族連れや若者グループらで大にぎわい。フィナーレの打ち上げ花火大会では、三百数十発の花火が鮮やかに夜空を彩り、夏の夕べを満喫しました。

平成十八年度文化祭について

平成十八年度文化祭は、古高松コミュニティセンター落成記念文化祭として、次の日程で開催することが決まりました。実行計画については、九月上旬に実行委員会を立ち上げ具体的に検討の予定。

「文化祭日程」

作品展示 十月二十七日(金)
二十八日(土)
発表会 十月二十九日(日)
会場 古高松、古高松南
両コミュニティセンター

編集後記

建設準備委員会発足から十一年。待望のセンター落成、開館ですが、課題はこれから。
「新しい皮袋に新しい酒を」。そんな願いも込めての記念号です。ご多用の中、ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。(C)



まつりの神髄。夜空を鮮やかに彩る打ち上げ花火。